

藻類の専門家を紹介して下さったので、その方にこれらの写真をメールで送付し、鑑定をお願いしました。すると、「藻体の様相と最終枝の形態からおそらく *Nitella pseudoflabellata* (ホンフサフラスコモ) あたりの種かと思われますが、解像度的になかなか難しいです」というお返事が返ってきました。フラスコモの同定には、小枝の分岐回数、最終枝(先端の枝)の細胞数、結実枝(生殖器がつく枝)が分化するかどうかなどを、ルーペや顕微鏡を使って確認する必要があります(笠井・石本 2011: 1)。写真ではきちんと同定できなかったのは、そのためです。

それから、フラスコモを水槽で繁茂させている点について、専門家から「水槽内でここまで繁茂させるのは難しいので興味深いところです」というコメントも頂きました。なぜこのフラスコモが、我が家の水槽を気に入ってくれたのかは全くわかりません。

フラスコモ属の藻類は地域固有種が非常に多く、しかもそのほとんどが環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類とされています。フラスコモが生育している環境の調査と保全は、急務であると言えます。

今回、私が琵琶湖とその周辺で出会えた水草は、ほんの一部に過ぎません。センニンモとササバモないしエビモとの交雑種とされる琵琶湖固有種サンネンモ *Potamogeton biwaensis*、センニンモとヒロハノエビモの交雑種であるヒロハノセンニンモ *Potamogeton leptcephalus*、シダ植物に近縁な小葉植物のミズナ *Isoetes japonica* など、分類学的に興味深い水草たちはまだ巡り合えていません。今後も気長に、琵琶湖やその周辺での水草探しを続けるつもりです。

【謝辞】

フラスコモの鑑定については、琵琶湖博物館の芦谷美奈子専門学芸員と新潟大学の加藤将准教授のご助力を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

【文献】

- 芦谷美奈子・角野康郎監修. 2018 琵琶湖沈水植物図説(第4版). 琵琶湖開発総合管理所, 滋賀. 281pp+99pp. https://www.water.go.jp/kansai/biwako/html/download/files/zusetsu/2018033002_plant.pdf (2022.10.10 閲覧)
- 笠井文絵・石本美和. 2011. しゃじくもフィールドガイド. 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター生物資源保存研究推進室微生物系統保存施設, 茨城. 16p. https://www.nies.go.jp/biology/pdfs/pu_6.pdf (2020.08.31 閲覧)
- 岸和田市. 2023. 報道発表「ムサシモが発見されました」. <https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/3/houdou-20231102musasimo.html> (2024.09.14 閲覧)



▲先端部の拡大写真



▲水槽で繁茂するフラスコモ

- 芳賀裕樹・芦谷美奈子・酒井陽一郎・石川可奈子. 2023. 琵琶湖南湖の2022年8月末の沈水植物の現存量分布、ならびに著しい沈水植物相の変化について. 陸水学雑誌, 84(3): 175-185. <https://doi.org/10.3739/rikusui.84.175>
- 松岡成久. online. 西宮の湿生・水生植物. <http://plants.minibird.jp/index.html> (2024.07.27 閲覧)
- 龍谷大学ニュースセンター. 2019. 【滋賀県初】絶滅危惧植物の「ムサシモ」 大津市の琵琶湖で発見. <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-4324.html> (2024.09.14 閲覧)

<則竹 賢>